

本時の課題

1 花から果実への変化

2 知識の確認

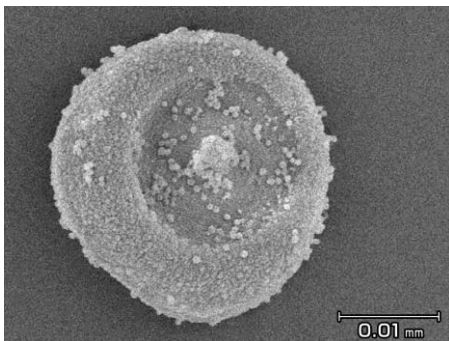
- 受粉とは、めしべの()におしべの()がつくことである。受粉すると、子房は()になる。また、胚珠は()になる。
- 種子によってなかまをふやす植物を()という。

【読み物】花粉をめしべに運ぶために

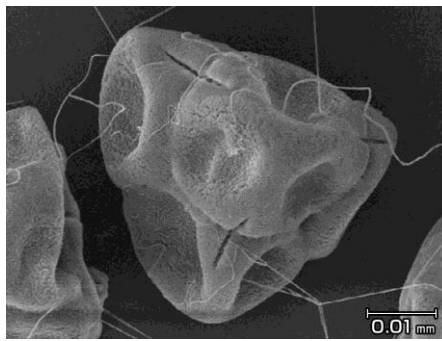
花には、色鮮やかな花弁や匂いをもつものがあります。花の色や匂いは、昆虫や鳥などの動物を引き付けるはたらきをしています。例えば、赤い色は鳥を引き付けると言われています。植物の種類によっては、花弁の模様で蜜の場所を動物に教えています(蜜標)。引き付けられた動物は、蜜を吸ったり、花粉を食べたりしています。このとき、動物はおしべの花粉をからだにつけ、別の花のめしべへと運び、植物は受粉を行います。花粉が風邪によって運ばれるイネやスギなどの花では、色鮮やかな花弁がありません。このような植物を「風媒花」といいます。昆虫を利用して花粉を他の花へと運ぶ植物を「虫媒花」といいます。めしべの柱頭にブラシのように毛のようなものをもつものもあり、また、柱頭がベトベトしているなど、運ばれてきた花粉をうまく受け取るような構造になっています。

☆色々な花粉の形

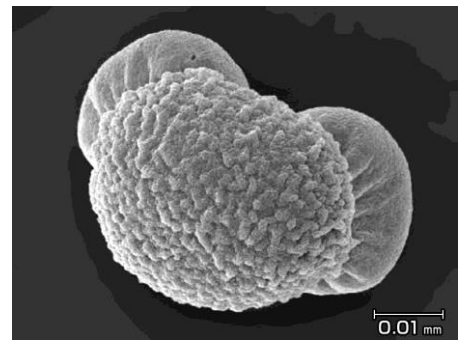
【スギ】



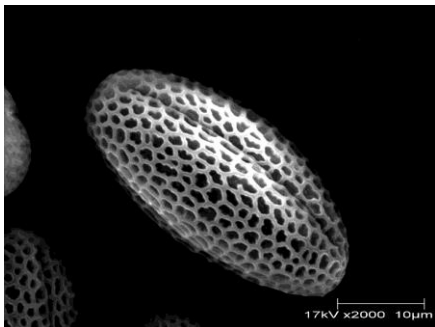
【ツツジ】



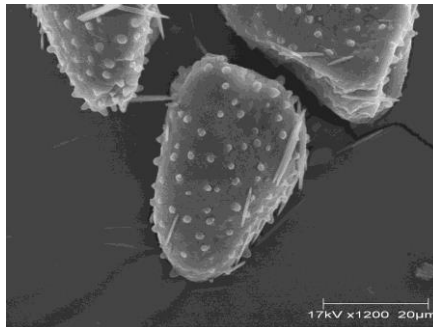
【マツ】



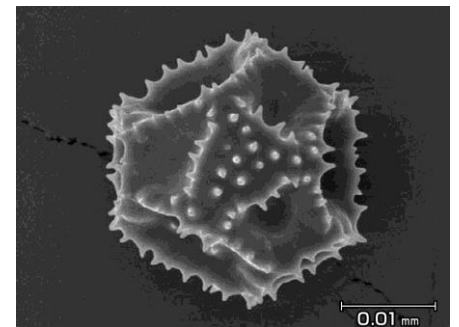
【アブラナ】



【ツユクサ】



【タンポポ】



【サクラ】

